

| | |
|------------------|---|
| Title | 彙報 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 三田史学会 |
| Publication year | 1948 |
| Jtitle | 史学 Vol.23, No.1 (1948. 1) ,p.133- 134 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19480100-0133 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙報

昭和十九年

一月二十六日 午前三時、於五十四番教室
(第三百四十回例會)

上代家人論考

守屋須美雄君
松本芳夫氏

崎博士祝賀會。(第三百四十七回例會)

日本神話の構造

松本信廣氏

間

九月八日 午後四時半より於三田學生食堂
卒業論文披露並送別會。(第三百四十一回
例會)

江戸幕府の農民生活への制度について
眞番郡考

聖德太子信仰とその畫像

中村秀男君
吉田俊郎君

江戸

近山金次氏

九月八日 午後四時半より於三田學生食堂
卒業論文披露並送別會。(第三百四十一回
例會)

虎豹變革備考について

住吉賢一君

河北展生氏
吉田俊郎君

江戸

近山金次氏

九月八日 午後四時半より於三田學生食堂
卒業論文披露並送別會。(第三百四十一回
例會)

第一次大戰及び今次大戰に於けるインフ
レーシヨンについて

金原賢之助氏

ヨハンネス・ラウレル師
吉田俊郎君

江戸

近山金次氏

九月八日 午後四時半より於三田學生食堂
卒業論文披露並送別會。(第三百四十一回
例會)

支那思想について

眞壁逸夫君

日本に於ける氣候の永年周期

江戸

近山金次氏

九月八日 午後四時半より於三田學生食堂
卒業論文披露並送別會。(第三百四十一回
例會)

東大寺造佛考

淺子勝二郎氏

ヨハンネス・ラウレル師
吉田俊郎君

江戸

近山金次氏

昭和二十年

十月二十三日 午後二時半、於九番教室
(第三百四十四回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

宗教と文化——ルネサンスの宗教改革

豐田富士男氏

江戸

近山金次氏

上代氏姓制度に就ての一考察

佳吉賢一君

野村康夫君
吉田俊郎君

江戸

近山金次氏

東海道枚方宿と助郷

元祿前後

野村康夫君
吉田俊郎君

江戸

近山金次氏

昭和二十一年

十月二十三日 午後二時半、於九番教室
(第三百四十四回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

宗教と文化——ルネサンスの宗教改革

豊田富士男氏

江戸

近山金次氏

上代氏姓制度に就ての一考察

佳吉賢一君

野村康夫君
吉田俊郎君

江戸

近山金次氏

昭和二十二年

十月二十三日 午後二時半、於七番教室
(第三百五十一回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

宗教と文化——ルネサンスの宗教改革

桑原隆次郎君

江戸

近山金次氏

英國の共産黨について

町人と江戸文學

小西健介君

江戸

近山金次氏

北亞に於ける象と駱駝の問題

森岡敬一郎君

日本に於ける氣候の永年周期

江戸

近山金次氏

昭和二十三年

十月二十三日 午後二時半、於七番教室
(第三百五十一回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

宗教と文化——ルネサンスの宗教改革

桑原隆次郎君

江戸

近山金次氏

英國の共産黨について

町人と江戸文學

小西健介君

江戸

近山金次氏

北亞に於ける象と駱駝の問題

森岡敬一郎君

日本に於ける氣候の永年周期

江戸

近山金次氏

昭和二十四年

十月二十三日 午後二時半、於七番教室
(第三百五十二回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

宗教と文化——ルネサンスの宗教改革

桑原隆次郎君

江戸

近山金次氏

英國の共産黨について

町人と江戸文學

小西健介君

江戸

近山金次氏

北亞に於ける象と駱駝の問題

森岡敬一郎君

日本に於ける氣候の永年周期

江戸

近山金次氏

昭和二十五年

十月二十三日 午後二時半、於七番教室
(第三百五十三回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

江戸

近山金次氏

英國の共産黨について

町人と江戸文學

小西健介君

江戸

近山金次氏

北亞に於ける象と駱駝の問題

森岡敬一郎君

日本に於ける氣候の永年周期

江戸

近山金次氏

昭和二十六年

十月二十三日 午後二時半、於七番教室
(第三百五十四回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

江戸

近山金次氏

英國の共産黨について

町人と江戸文學

小西健介君

江戸

近山金次氏

北亞に於ける象と駱駝の問題

森岡敬一郎君

日本に於ける氣候の永年周期

江戸

近山金次氏

昭和二十七年

十月二十三日 午後二時半、於七番教室
(第三百五五回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

江戸

近山金次氏

英國の共産黨について

町人と江戸文學

小西健介君

江戸

近山金次氏

北亞に於ける象と駱駝の問題

森岡敬一郎君

日本に於ける氣候の永年周期

江戸

近山金次氏

昭和二十八年

十月二十三日 午後二時半、於七番教室
(第三百五十六回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

江戸

近山金次氏

英國の共産黨について

町人と江戸文學

小西健介君

江戸

近山金次氏

北亞に於ける象と駱駝の問題

森岡敬一郎君

日本に於ける氣候の永年周期

江戸

近山金次氏

昭和二十九年

十月二十三日 午後二時半、於七番教室
(第三百五十七回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

江戸

近山金次氏

英國の共産黨について

町人と江戸文學

小西健介君

江戸

近山金次氏

北亞に於ける象と駱駝の問題

森岡敬一郎君

日本に於ける氣候の永年周期

江戸

近山金次氏

昭和三十一年

十月二十三日 午後二時半、於七番教室
(第三百五十八回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

江戸

近山金次氏

英國の共産黨について

町人と江戸文學

小西健介君

江戸

近山金次氏

北亞に於ける象と駱駝の問題

森岡敬一郎君

日本に於ける氣候の永年周期

江戸

近山金次氏

昭和三十二年

十月二十三日 午後二時半、於七番教室
(第三百五十九回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

江戸

近山金次氏

英國の共産黨について

町人と江戸文學

小西健介君

江戸

近山金次氏

北亞に於ける象と駱駝の問題

森岡敬一郎君

日本に於ける氣候の永年周期

江戸

近山金次氏

昭和三十三年

十月二十三日 午後二時半、於七番教室
(第三百六十回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

江戸

近山金次氏

英國の共産黨について

町人と江戸文學

小西健介君

江戸

近山金次氏

北亞に於ける象と駱駝の問題

森岡敬一郎君

日本に於ける氣候の永年周期

江戸

近山金次氏

昭和三十四年

十月二十三日 午後二時半、於七番教室
(第三百六十一回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

江戸

近山金次氏

英國の共産黨について

町人と江戸文學

小西健介君

江戸

近山金次氏

北亞に於ける象と駱駝の問題

森岡敬一郎君

日本に於ける氣候の永年周期

江戸

近山金次氏

昭和三十五年

十月二十三日 午後二時半、於七番教室
(第三百六十二回例會)

獨乙より歸りて
守屋謙二氏

江戸

近山金次氏

英國の共産黨について

町人と江戸文學

小西健介君

江戸

近山金次氏

北亞に於ける象と駱駝の問題

森岡敬一郎君

日本に於ける氣候の永年周期

江戸</p

切支丹傳道の方法に就いて

吉田小五郎氏

六月十二日 午後二時、於九番教室、(第三百五十八回例會)

賤民猿樂衆法師の發生について

河津富美子君

印度に於けるパキスタン問題について

小塙學君

十七八世紀英國に於ける支那茶の使用

竹田龍兒氏

義塾九十周年式典と新聞記事

間崎萬里氏

六月二十六日 午後二時、於八番教室(第三百五十九回例會)

山下淳君

支那商人ギルドの發生について

永井哲明君

中世思想の形成と先驗的歴史哲學の傳統

神山四郎氏

七月十日 午後二時、於八番教室、(第三百六十回例會)

伊藤清司君

戰爭の爲中絶してゐた三田史學會の見學旅行も、愈々昭和二十一年六月十九日の鎌倉見學を以て再び始められるに至つた。

昭和廿一 鎌倉見學報告

年度春期

當日七時五十分、品川驛横須賀線下り「フオーム」上に一同集合する。御指導下さる伊木先生始め、間崎、今宮、淺子、河北の教授、先輩及び學生廿數名の多人數であつた。八時十二分發の電車にて出發し、九時に北鎌倉驛に到着した。此所で湘南在住の學生諸君と合流する。

直に、驛上の圓覺寺に向ふ。途中伊木先生より御説明を伺ひ乍ら參道を進んで行く。現在では境内は縣道、鐵道の爲に中斷され得るが、昔ははるかに廣かつたさうとの事である。鎌倉五山の第二に當り、弘安五年北條時宗の創建にかかり、宋僧無學祖元(佛光國師)を開山とする。山門を入り、時節がら増産のため耕作されてゐる

佛殿跡に今昔を偲びつつ舍利殿に至り、伊

木、淺子兩先生より夫々御説明があり、且

て拜見する。この外の多數の寶物類は尙

開中とて拜見出来なかつた。晝食後元祿五

年の銅碑の立つてゐる方丈の庭園(史蹟名勝指定)を見る。當時の庭園も圓覺寺同様

一、大覺禪師諷誦文(國寶) 壱幅

一、大覺禪師法語規則(紙本墨書) 貳幅

一、開山禪師頂相(絹本着色)(國寶) 貳幅

一、和漢年代記(紙本墨書)(國寶) 貳冊

附 元祿寫本 壱冊

を開山とする。鎌倉五山の第一位に居り、地獄谷と稱する刑場の跡に建てられたと言ふ。

方丈前にて管長菅原時保師にも加はつて

頂き記念撮影行ひ、更に御佛前にて淺子先

輩の御説明を受けてから、折悪しくまた降

つて來た細雨の中を開山堂に向ふ。元氣な

者は更に難路を攀びて裏山の大覺禪師、佛

光國師の墓(共に國寶)に詣る。共に一米

ばかりの小塔であるが、鎌倉時代の特色を

示した代表的なものである。

夫より鶴岡八幡宮に向ふ。裏參道より社

殿前に到着したのは二時頃であつた。參拜

途上、東慶寺門前にて緣切寺の昔話を伺ひ

又最明寺人道時頼の墓を遙拜し、十一時近

く亘福山建長寺に至る。同寺は北條時頼の

創建にかかり、宋僧蘭溪道隆(大覺禪師)

初め源頼義が石清水八幡宮を鎌倉に勧請し

たのは現在の大町辻町であり、それを頼朝